

若手・女性研究者奨励金にご支援を賜りました 寄付企業法人や寄付者の皆様へ



受賞者から御礼の言葉

2020年度（第3回）女性研究者奨励金 受賞者
〔※2021年度への繰越し申請をした受賞者〕

草野 知美

北海道科学大学 保健医療学部 看護学科 講師

〔研究課題名〕

自閉症スペクトラム症のある子どもの自己理解を支える看護
－アセスメントツールの開発－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今後は、『特性・診断名を伝える過程で揺らぐ母親を支えるアセスメントツール』の更なる精選及び実用化を目指し検討していきたい。また、母親自身が特性・診断名を伝える過程を知ること、子どもが特性や診断名を理解できるよう見通しをもって養育することが可能となり、母親が自分の状況を理解し、自ら支援を求めることが期待できる。今後もASDのある子どもたちの自己理解を支えられるよう実践的な研究を進めていきたい。

本研究を実施するにあたり、貴重な奨励金の助成をいただきましたことに感謝いたします。

今後も自閉スペクトラム症のあるお子様とご家族への看護に活用できる研究を行っていきたいと考えています。

一條 玲香

尚綱学院大学 総合人間科学系 心理部門、心理・教育学群 心理学類 講師

〔研究課題名〕

外国人技能実習生のメンタルヘルスと異文化適応

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、研究にご援助いただきありがとうございました。

技能実習生というテーマは、今の日本社会と密接に関係する課題です。社会問題としては大きく取り上げられることはありますが、研究分野、とくに心理学では研究の蓄積が少ない分野です。

今回助成いただけたことで、技能実習生の異文化適応とメンタルヘルスに関する一知見を提供することができました。

このような分野であってもご援助いただけたことに深謝いたします。

研究成果を社会に還元できるよう今後も研究を重ねてまいりたいと思います。

大石 斐子

国際医療福祉大学 成田保健医療学部 言語聴覚学科 助教

〔研究課題名〕

失語症患者の文理解障害に構文の使用頻度が及ぼす影響

寄付者の皆様へ 〔御礼〕

この度は女性研究者奨励金をとおして本研究を御支援いただき、心より感謝申し上げます。

COVID-19の流行によって研究の進行が当初の計画より大幅に遅延しましたが、繰越しをお認めいただき継続することができました。重ねて御礼申し上げます。

失語症は目に見えない障害であると同時に、当事者が声を上げることが困難な障害であることから、社会的に認知されているとは言い難い状況です。本報告をとおして失語症状や当事者の抱える苦難の一端を知っていただくと共に、今後も御支援を賜れましたら幸甚に存じます。

百瀬 良

昭和女子大学 生活心理研究所 助教

〔研究課題名〕

女性心理支援専門職のキャリア発達に関する基礎的研究
－ 複線経路等至性モデリング(TEM)を用いた質的研究－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回の研究を遂行するに当たって、貴事業団様よりのご支援を賜り、インタビュー調査を実施し質的研究法の一つである複線経路・等至性モデル（Trajectory Equifinality Model：TEM）を用いた研究活動を進めることができました。その結果、研究者として次のフィールドへの異動が叶い、研究を継続していく地盤を持つことができました。

改めまして、私の研究への多大なご支援に厚く感謝申し上げます。

吉田 実花

東京農業大学 農学部 助教

〔研究課題名〕

収穫月の異なるトマト果実間における低温耐性メカニズムの解析

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回、ご支援いただき得られた研究結果を活かして、さらに研究を進め、農作物の生理障害発生メカニズムの一端を明らかにすることで、最終的に世界の食糧問題の解決に貢献したいと考えております。ポストハーベストは、多くの企業の皆様とも深く関わりのある研究分野です。研究成果を社会に還元することが一番の社会貢献につながると考えておりますが、そのためには、実際の現場をよくご存じの企業の方などとの共同研究が欠かせません。今後は様々な方との共同研究にも積極的に取り組み、研究結果を社会に還元し、最終的には食品ロスの削減につなげていきたいと考えております。

今後とも、ご支援・ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

張 平星

東京農業大学 地域環境科学部 助教

〔研究課題名〕

地域資源を活かした小型信仰施設が都市化に適応する知恵

－ 京都白川石の地蔵を事例として －

寄付者の皆様へ〔御礼〕

医理工系の研究課題が多い中、採択いただき、誠にありがとうございます。

地道なフィールド調査が主となるため、京都往復の旅費の支援がなければ本研究は成り立ちません。私の出身地でない信仰の形ですので、8月の京都の炎天下の中、滝のような汗を流していましたが、予想外なところで石仏を見つけた時の喜びが鮮明に残っています。2年間の調査で京都全域の石仏を把握することができませんでしたが、微力ながら京都の「お地蔵さん」の保存と発信、そして現代の都市づくりに貢献できれば幸いに存じます。

小野沢 栄里

日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学臨床部門 助教

〔研究課題名〕

がん動物看護ケアの実践に役立つ標準動物看護計画の作成
－愛玩動物看護師の誕生に向けた取り組み－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、本研究遂行のためにご支援賜りましたこと深く感謝申し上げます。

本研究は飼い主様へ調査協力をお願いする必要があったため、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中での研究の遂行は困難を要することもございましたが、2021年度も引き続き研究継続が可能となり、本研究成果を出すことができました。

女性研究者に特化した支援は少ないため、今回このような機会をいただくことができ、研究者としてさらなる経験を積むことができました。

優秀な女性研究者は多数おりますので、次なる女性研究者に向けて引き続きご支援いただけますと幸いです。

西本 あか奈

日本医科大学 医学部 助教



〔研究課題名〕

皮膚線維腫は腫瘍性疾患ではなく線維増殖性炎症性疾患か？

— 疾患スペクトラム仮説：ケロイド～肥厚性瘢痕～皮膚線維腫 —

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は本研究のために研究費の助成をいただき、本当にありがとうございました。私は臨床医として過ごしてきた期間が長く、研究を開始したものとしては日が浅かったために、本研究費が取得できた初めての研究費になります。研究を行うための設備や書籍、学会発表のための費用などをこの研究費から支出することができ、研究者としてやっと一歩を踏み出せたという心持ちです。

また若手・女性研究者助成金であることに触れますと、本研究中に3人目の子供の出産を行いました。周囲の手厚いサポートがあり、現在も臨床・研究を継続することができています。妊娠・出産に伴う遅々とした研究の進みに付き合ってくださいました指導者の先生方、支援者の皆様方に深く感謝申し上げます。

コロナ禍は学会の中止や受診患者の減少など、様々なマイナスの傷跡を残しましたが、同時に我々女性研究者にとっては良い影響ももたらしました。具体的には、オンラインミーティングの普及やテレワークの一般化、ハイブリッド学会の実現などです。実際本研究中にも、指導者が異動となり、全ての研究へのアドバイスなどをオンラインで受けるようになりましたが、オフラインとあまり変わらないクオリティでミーティングを行っていると感じています。また、私の研究は病理や画像解析など、環境さえ整えば自宅でも可能なものであり、産休中に自宅でも継続することができました。また、オンライン発表を許容するハイブリッド型の学会は、移動にかかる手間やコストを削減でき、小さな子供がいる場合でも移動や宿泊の手間を考慮せず発表・聴講を可能にしました。

以上のような変遷は、地方と首都圏との環境の違い、および育児のある医師とない医師との狭間をフラットにするのにとっても良い変化であったと感じています。今後、私のような悩みを持つ女性研究者からも、良い視点・研究が生まれる可能性があることと思います。

本研究助成金の仕組みが長く続き、より多くの若手・女性研究者が研究をあきらめず、継続可能な社会となることを切に望みます。

近藤 有美香

東京家政大学 人文学部 期限付助教

〔研究課題名〕

大学生が援助要請行動に至るまでの認知的プロセスに関する検討
－インタビュー調査による質的分析－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回のご支援により、今まではただ思い描くだけであった研究を実際に形にすることができました。特に、ご支援をいただくことが決定した直後に新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態に見舞われ、計画していた研究を本当に実施できるのかと不安感じておりました。その中で、2021年度までの研究継続をお認めいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

この2年間を通して、研究者として様々な視野を広げることができたと感じております。当初の計画から変更せざるを得ない箇所もあり、その点は研究仲間と意見を出し合いながら柔軟に対応する力を身に付けることができました。研究手法でいえば、オンラインシステムの普及スピードは想像を超え、ビデオ会議システムは当たり前のように利用されるようになりました。できないと最初から諦めてしまうのではなくできる方法を模索することと、変化に対応できるだけの柔軟性の大切さを改めて感じた次第です。

本研究において、現代の大学生が周囲に援助を求める際にどのようなことを考え、判断しているのかを明らかにすることができ、適切な援助要請のあり方や必要な支援方法に関する知見を得ることができました。今後は、今回の研究結果に基づいた質問紙調査を実施して、適切な援助要請を促すためにはどのようなアプローチを行っていく必要があるのかという視点で研究を進めていきたいと考えております。

今後のご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

板倉 祥子

城西大学 薬学部 助教

〔研究課題名〕

マイクロフルイディクスを用いた赤血球膜成分融合ナノ粒子の創製

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、研究助成金のご支援を賜り、日本私立学校振興・共済事業団、関係者各位に深謝いたします。

助教として赴任して初めて採択いただいた助成金であり、これからの活動の基盤となるような研究に挑戦することができ、大変励みになりました。

ナノ粒子を用いたDDSはsiRNAやRNAワクチンの実用化により、今後も様々な疾患や薬物に対して盛んに開発されていくと考えられます。生体分子を薬物送達に活用することはこれまでも研究されてきましたが、新たな調製技術により様々な生体膜のナノ粒子化と医療応用に取り組んでいきたいと考えております。医療分野の研究は日進月歩で発展し続けており、他分野との融合や新しいものを取り入れ、チャレンジしていきたいと思っております。未来の人々の命や健康に少しでも貢献できるよう、今後も精進してまいります。

桐原 更織

新潟青陵大学 助教

〔研究課題名〕

感覚器や多臓器の障害により生命維持や社会生活への支障を有する
CHARGE症候群のわが子と生活する親の体験

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、本奨励金のお陰で、CSの子どもを育てる親の貴重な語りをお聴きし、調査することができた。障害をもつ当事者の視点で体験を理解することの重要性を再実感したところである。今後は、さらなるデータを積み重ね、CSの子どもと家族への看護実践に活かすことができるよう検討を重ねていきたい。

これからもご協力ご支援のほど、お願いいたしたく思う。

松下 明日香

金沢学院大学 文学部 教育学科 助教

〔研究課題名〕

乳幼児のコンピテンシーにおける順序性の検討

－保育評価ツールとしての活用を目指して－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度はご支援をいただき誠にありがとうございました。女性研究者奨励金のおかげで、コロナ禍でも研究を進めることができました。

特に、日本では幼児教育分野での研究がほとんどされてこなかったポーランドで研究協力者を得て、研究フィールドを開拓できたことは大きな成果です。ポーランドはコンピテンシーベースの幼児教育を導入しており、かつ保育者には修士号の取得が義務付けられています。ポーランドの教育を乳幼児のコンピテンシーの視点から分析することで、日本の保育の質向上に向けて何らかの知見が得られるのではないかと考えます。

また、ご支援いただいているという有難さも研究を進める原動力となっていました。今後も地道に研究を続け、微力ながら幼児教育の分野および日本の社会へ貢献したく存じます。

中尾 彩子

修紅短期大学 幼児教育学科 講師

〔研究課題名〕

保育現場における改善方法の探索
－ こどもの行動変容に着目して －

寄付者の皆様へ〔御礼〕

私は、大学院卒業後すぐに研究分野で活動することができず、2016年に機会に恵まれ現職につくことができました。しかし、いざ研究を始めようとする、研究環境の整備は難しく、なかなか踏み出すことができないでございました。そのような中で本ご支援は、私の背中を押してくれました。本ご支援を頂戴できたことは、私にとって大変幸運でした。心より御礼申し上げます。

おかげさまをもちまして、園が研究してほしい内容を研究したいという私の望みに近づき、園との協同を進められるようになりました。また本研究は、コロナ禍により、対面による学会参加等の機会が消えたり、園内に部外者が入ることが困難な期間があった時期でしたが、本ご支援によって得ることのできた研究環境によって乗り越えることができました。また、研究期間延長の措置により、対象園に必要以上の負荷をかけることなく研究をすすめることができました。ありがとうございました。まだまだ研究者として未熟な自分ではありますが、今後も保育者と子どもに関わる研究をしていく所存ですので、これからも変わらぬご支援、ご厚情を賜りますよう、よろしく願いいたします。

宮本 真有

名古屋外国語大学 世界教養学部 助教

〔研究課題名〕

日本語口頭運用能力の半自動採点を目指した基礎的研究
— 複雑性、正確性、流暢性（CAF）の指標を用いて —

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は2020年度女性研究者奨励金によるご支援を賜り、誠にありがとうございます。

音声の分析といえば、以前は録音機とストップウォッチを片手に手でデータを分析するような大変な作業だったそうですが、近年はテクノロジーの発展により、分析作業が格段に容易になりました。英語の分野をはじめその他の言語分野でも、より一層「スピーキングテストの半自動化」への研究が注目されています。中でも特に日本語においては、英語とは随分と異なる言語体系をもっていますので、英語分野での発見をそのまま応用するのではなく、しっかりと日本語のデータに基づく調査をした上での判断が重要だと考えます。

研究を進めるにあたり欠かせないのが、分析に使用するさまざまなソフトウェアです。テクノロジーの目紛しい発展により常に新しい技術が生まれ、それに伴って新しい研究手法や分析方法も常に検討していく必要があります。この度は奨励金によるご支援のおかげで、そのような新しい技術を取り入れた研究を行うことができました。

日本私立学校振興・共済事業団の皆様、並びにご寄付をいただいた関係者の方々、心より感謝申し上げます。

これからも継続して研究を続けその成果を報告するという形で、社会へ貢献していきたいと思っております。

青野 美幸

京都医療科学大学 医療科学部 放射線技術学科 助教

〔研究課題名〕

小規模単科大学におけるガクシュウ（学習・学修）支援の研究
— 大学生活4年を通じたガクシュウ（学習・学修）支援の方法 —

寄付者の皆様へ〔御礼〕

2020年度はコロナウィルス感染拡大により、予定していた研究方法で研究が実施できませんでした。研究成果をあげることが難しいという現実を前に女性研究者奨励金をいただけたチャンスを生かせない悔しさと申し訳なさでいっぱいでした。そのような中、2020年度若手・女性研究者奨励金を2021年度に繰り越すことを可能としていただき、本当にありがとうございました。再度いただいたチャンスを生かすという決意のもと、今できることは何かということを決断し、研究を実施し、一定の成果をあげることができました。また、いただいた奨励金をもとにした研究結果から、新たな展開も明確にみえてきました。

また、私事になりますが、2020年度に双子を出産し、2021年度に第3子の妊娠がわかり、現在出産を控えています。産前産後の体の不調もありましたが、若手・女性研究者奨励金をいただけたという喜びが、研究への熱意を持ち続ける理由の一つとなっていました。苦しい状況でも研究を継続できたのは、ご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団および関係者の皆様のおかげです。心より御礼申し上げます。

中原 正子

広島国際大学 保健医療学部 講師

〔研究課題名〕

フェルラ酸薬効に対する脳内血管内皮細胞の新規検査法開発

寄付者の皆様へ〔御礼〕

2020年度女性研究者奨励金に採択下さり、ありがとうございます。

大所帯の研究所研究員から大学教員へと転職し、独立して研究を行うことに不安を抱えておりましたが、本奨励金のご支援を受けて研究をスタートすることができました。

また本奨励金で行った基礎検討結果をもとに2021年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業の基盤C獲得につなげることができ、さらには2022年6月 指導する学生が日本医療検査科学会 JACLaS Award I を授賞しました。

本奨励金の採択が自身の研究活動に弾みをつける大きなきっかけとなったことは言うまでもありません。心からお礼申し上げます。

龔 恵芳

大手前大学 国際看護学部 助教

〔研究課題名〕

WEB版看護学生用実習適応感尺度の開発

寄付者の皆様へ〔御礼〕

covid19の影響で予定通りに研究を進めることができず焦る気持ちがありました。しかし、看護学生は先が見えない・予定が定まらない中での臨地実習に疲れるという声を聞いたり、制限の中でも臨地実習に行けて良かったという声を聞いたりし、今できること・すべきことは何かを考える機会となりました。また、研究することが目的にならないよう、社会にどう還元していくかが重要であることを改めて気づくことができました。

臨地実習における看護学生の適応感に疑問を抱き、気づけば15年が過ぎていました。今後も引き続き、1人でも多くの志しをもった看護師を送りだせるよう精進して参ります。

日本私立学校振興・共済事業団の関係者の皆様、研究にご協力いただいた皆様、ご支援・ご指導いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

座間味 愛理

長崎短期大学 保育学科 講師

〔研究課題名〕

英語で展開された動作法の体験と効果に関する語りの分析

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度のご支援は、私にとって育児休業明けの復職と研究に戻る契機となりました。1年半の育児休業では、子育ての喜びだけでなく、キャリアや社会から取り残される感覚があり、男性研究者を羨む気持ちとともに、研究職に就く女性の先輩方の苦労を実感しました。復職後、職場から「若手・女性研究者奨励金」の情報をいただき、一度途絶えた研究にもう一度チャレンジしてみようと思えました。その後、コロナウイルスの感染拡大に見舞われ、身体に触れることを前提とする全国の「動作法」活動は停止し、私の研究も再開できずにいました。そのような状況を鑑み、研究費の繰り越しを認めてくださったおかげで、感染が落ち着いたころに再始動することができました。研究の成果は十分とは言えませんが、この研究を基盤に海外の学会でも発表を行い、動作法の国際的な発信を進め、議論の展開に寄与したいと考えています。支援金を通してチャレンジする機会を与えてくださった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。